甲状腺外科草子 115

独断のお気に入り映画３

杉野　圭三

ミュージカル映画を選ぶなら、メリー・ポピンズやサウンド・オブ・ミュージックで主演した**ジュリー・アンドリュース**の存在を忘れることはできない。

サウンド・オブ・ミュージック〈1965年、ロバート・ワイズ監督〉

冒頭、アルプスの広大な景色と撮影の技術に驚かされる。修道女見習いのマリアの天然な明るさとトラップ大佐の厳格な性格の対比が見所の一つ。どの歌も名曲ばかりで、世界中に愛されてきた。クリストファー・プラマーの歌う「エーデルワイス」に憧れて練習したものの周囲から冷たい評価だった。

ナチスの圧政に苦しむ時代背景だが、音楽の美しさ、終盤の修道女たちの懺悔の場面など随所に描かれるユーモアに救われる。

雨に唄えば（1952，ジーン・ケリー、スタンリー・ドーネン監督）

サイレント映画からトーキーへと変わる時代、声の良し悪しもスターの大きな評価となる。声質の悪い女優リナ・ラモントを演じたジーン・ヘイゲンには気の毒な役柄だったが、実際の彼女の声は美しいと言われ、この映画で高く評価されアカデミー助演女優賞にノミネートされた。

サイレント映画時代の描写やトーキーの映画作り、そのトラブルも面白い。

主演のデビー・レイノルズはこの映画で大人気となる。娘はスター・ウォーズのレーア姫役のキャリー・フィッシャー。

ドナルド・オコナー　　C・フィッシャー

ジーン・ケリーの踊り以上に助演のドナルド・オコナーの身の軽さに驚かされた。

リオグランデの砦（1950 年、ジョン・フォード監督）

「騎兵隊三部作」の中で最も好きな映画。

主演のジョン・ウェインとモーリン・オハラとの息もピッタリ。脇役のヴィクター・マクラグレンと共に「フォード一家」らしい作品となっている。

ヴィクター・マクラグレンは「男の敵」でアカデミー主演男優賞を受賞、「静かなる男」などジョン・フォード間督作品に多数出演した。脇役に徹してから、味のある演技で存在感が高く評価されている。

裸馬に立ち乗りする「Roman style」の乗馬シーンも必見。劇中歌の **“I'll Take You Home Again,Kathleen”**も忘れ難い。歌っているケン・カーティスはジョン・フォード監督の義理の息子にあたる。

「ミュージカル」はミュージカルらしく、「西部劇」は西部劇らしいのが一番である。

（　一甲状腺外科医の徒然なる随想　）

2024 年 10 月 9 日